

















項目	イメージ	学校の基準 (下線は児童自己評価)	家庭ですること
学習用具	ロッカー・フック 	○ランドセルは止めを奥にして、1、2段目のロッカーに入れる。 ○上着・帽子は、ランドセルに入れる。 ○絵の具・粘土等は、3段目のロッカーに入れる。 ○体育着袋・音楽バッグは、廊下のフックにかけろ。 <u>○すべての持ち物に名前を書く。</u> ○鍵盤ハーモニカ、習字・裁縫道具は、ランドセルの横に入れる。	すべての持ち物に名前が書いてあるか確かめましょう。
	くつ箱 	○校庭側・・・上履きを入れる。 ※つま先・かかとに記名 ○廊下側・・・外履きを入れる。 ※つま先を奥にし、かかとを手前にそろえる。	金曜日には上履きを持ち帰らせ、汚れ、破損、記名等を点検しましょう。また、月曜日には上履きを確実に持たせましょう。
	机 	○ぞうきんは、椅子の脚に洗濯ばさみでとめる。 ○左側の箱 ※色鉛筆、クレパス、のり、はさみ、コンパス、分度器、三角定規 など ○右側の箱 ※教科書、ノート、筆箱、下敷きなど	学期に1回持ち帰るので、不足、破損、記名等を点検しましょう。
	筆記用具 	○「学習用具のきまり」(4月に配布)でチェックする。	筆箱の中を定期的(1週間に1回以上)に点検しましょう。
授業	準備と待ち方 	○教室の移動は、担任の先生と並んで行く。 ○授業に使う教科書やノートなどを机の上に準備しておく。	学校の準備を自分でさせましょう。
	座り方 	「ピン・ピタ・ゲー」 ○背筋はピン ○足の裏は床にピタ ○お腹と机の間は、ゲーを一つ分 ※手は、膝の上にそろえておく。	家庭の中でも、正しい姿勢を意識させましょう。
	ノートの使い方 	○授業のはじめは、新しいページ開いておく。 ○下敷をノートの下に敷いて書く。 ○日付を書く。 ○教科書のページ番号を書く。 ○課題を書く。 ○行間を空けてゆったり書く。 ○定規を使って線を引く	週に1回程度、子どものノートを点検しましょう。

項目	イメージ	学校の基準 (赤字は児童自己評価)	家庭ですること
授業	発言の仕方 	<u>○名前を呼ばれたら、「はい」と大きな声で返事をしてから発言する。</u> ○声の大きさに気をつけて、語尾までしっかりと話す。 ○「～です」「～ます」「～さん」「～くん」等、丁寧な言葉遣いで話す。	名前を呼ばれたら返事をさせましょう。
	話の聞き方 	<u>○目・耳・心で話を最後まで聞く。</u> ○今やっていることをやめて聞く。 ○話し手を見て聞く。 ○うなずきながら聞く。 ○相手の話を遮らないように反応しながら聞く。	相手の目を見て会話をさせましょう。
	片付け 	<u>○進んで片付けをする。</u> ○椅子を中に入れる。 ○みんなで使ったものは、元の場所に置く。	後片付けは必ず自分でさせましょう。(状況に応じて、一緒に片付ける)
その他	登校 	<u>○遅刻せず、午前8時20分には登校する。</u> ○通学路を守って、登下校する。	決まった時刻に就寝、起床させましょう。
	給食 	○給食中は、余計なものを机の上に出さない。 ○必ずナプキンをしく。	ナプキンやマスクを毎日持たせましょう。
	廊下歩行 	○校舎内は静かに歩く。 ○2列に並んで歩く。 ○静かに右側を歩く。	公共の場での過ごし方について話し合しましょう。
	あいさつ 	○自分から笑顔であいさつをする。 ○相手を考えた敬語を使う。 ○感謝の気持ちを「ありがとう」で伝える。 ○迷惑をかけたなら「ごめんなさい」と言う。	家庭でも、様々な時間や場面で挨拶をさせましょう。
	休み時間 	○天気の良い日は、外に出て遊ぶ。 ○校舎内に残る場合は、先生のいる場所、もしくは図書室で静かに過ごす。 【SNS学校ルール】 ・1日に使う時間をきめる。(目安:30分)	SNS学校ルールに従い、携帯電話、ゲーム、テレビのルールを家庭で決めましょう。
	連絡・宿題 	○家の人に手紙を渡し、連絡帳を見せる。 ○時間割に合わせて準備する。 ○宿題は必ず提出する。 ○家庭学習の目安の時間は、「10分×学年」	学校からの連絡や宿題を点検しましょう。
大人のルール 	大人が変われば子供も変わる ☆こころの東京革命	～大人(家庭・地域・学校教職員)が子どもの手本となる～ 一、毎日きちんと挨拶させよう 一、善いことは褒め、悪いことは叱ろう 一、ねだる子どもにがまんさせよう 一、先人や目上の人を敬う心を育てよう	

